

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第96回

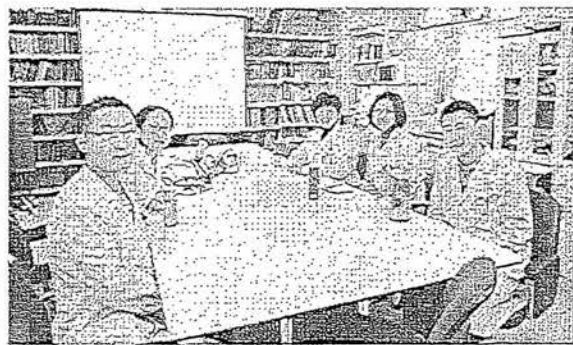
金沢大学の活動報告



小川恵子 (金沢大学附属病院 漢方医学科長)

中国・天津中医薬大学の学生に 日本漢方医学に関する研修実施

金沢大学附属病院漢方医学科は、平成23年4月に和漢診療外来として開設され、平成27年1月には、漢方医学科として独立しました。金沢大学は、昭和初期に漢方医学復興に尽力した湯本求真(1876-1941)先生の母校です。また、金沢は、第二次世界大戦で空襲を受けなかったため、加賀藩時代から収集された貴重な書物(医学書や本草書を含む)が残存しています。このように、金沢大学には漢方医学を世界に発信する土壌があり、日本独自の特色ある伝統医学を継承し、漢方医学教育、さらには研究を行うことにより、世界に日本の特徴たる統合型漢方医学を発信し、日本の医学の独自性を世界に示す拠点として発展しています。



解剖学研究室にて

一方、天津中医薬大学は1958年に創立された天津中医学院をルーツに持つ、中国有数の中医薬大学の一つで、医学部を始めとする4つの学部と18の学科が設置されています。大学内には3つの付属病院を始め、中医薬研究院・科学研究所医療センター、国家薬品臨床研究基地などが設置され、中国工程院院士(中華人民共和国における技術分野の最高研究機関のメンバー)を含む国際レベルの研究が、研究者たちが、伝統医学の発掘・整理、人材の育成および

Table with 2 columns: 日程 (Schedule) and 内容 (Content). It lists a 10-day itinerary for a research exchange program, including arrival, lectures, dissections, and a departure.

①プログラムの概要
世界的に注目されている伝統医学の診断法や診察法、そして治療法は、まだまだ科学的に解明されていない部分も多いですが、300年以上に及ぶ臨床経験は無視することはできません。日本の伝統医学である漢方医学は、その起源を中国伝統医学に持つものの、日本の気候や風土に合わせて発展し現在の形となりました。また、日本の漢方医学の大きな特徴は、保険診療として、漢方薬が現代医学的治療と併用可能であることです。その結果、最近では臨床・基礎を含めて非常に質の高いエビデンスが構築されています。我が国の優れた研究技術と、伝統医学はバランスの取れた進化を遂げていると考えられます。
また、日本の鍼灸の高い技術は特に欧米では知られていますが、用語や手技の伝達が困難であることから、十分に交流ができていないと言いがたく、特に、中国との交流は一部に限られておりましたが、中国で伝統医学を学ぶ学生は、日本伝統医学の臨床や研究内容に非常に高い関心を持つているとのことでした。



脳科学研究室でのレクチャー



津田昌樹先生による鍼灸レクチャー



自然薬草園にて



薬学部研究室にて

③今後の展望
 今回、初来日した学生から「ぜひまた日本にきたい。金沢大学に留学したい」との声を聞きました。今後も、さくらサイエンスプランを活用できる機会がありましたら、大学病院内の漢方医学科という強みを生かしたプログラムを組み、日本の漢方医学を学んでいただきたいと思えます。また、研修プログラム内に「観光」を組み込むことができれば、更に日本を好きになっていただき、民間レベルの国際交流の輪が広がっていくのではないかと考えます。

とても有意義な国際交流の機会をいただき、また本学の教職員・学生にとっても素晴らしい経験をさせていただきましたことに、JSTならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

漢方医学の起源である中医学を研究する学生に、日本漢方医学を視察して頂き、さらに中医学との相違や相似点を議論することによって、双方にとって新たな学問の道が開かれると考え、金沢大学附属病院で行われている漢方医学の臨床と、それに付随して行われている基礎研究、鍼灸治療などを視察して頂き、意見を交換することにより、相互理解を深め、将来的には具体的なテーマで共同研究につながるような道を開くことを目的に「漢方医学と中医学の情報交換と交流」を計画しました。

②プログラムの成果
 10日間(実質8日間)の研修期間中、金沢大学附属病院で行われている漢方医学の臨床見学やレクチャー、デイスカッションを行い、日本の漢方医学に実際に触れ見識をより深めることができました。さくらサイエンスプランの趣旨にご賛同いただきました本学の先生方のご協力の下、リハビリテーション科の外見学、解剖実習、金沢大学自然薬草園の見学、薬学レクチャー、脳科学研究室での基礎研究についてのレクチャー等を実施し漢方医学のみならず、日本の医療について様々な角度から学び、意見交換を行いました。

また、学外の先生方にも講師をご快諾いた

だき、夢恵堂院長の鍼灸師・津田昌樹先生による「日本鍼灸について実技を交えての講義」、熊本赤十字病院総合内科総合診療科・加島雅之先生による「地域医療に役立つ急性期・救急疾患からみた漢方入門講座」、富山大学薬学部・杉本健士先生による「創薬化学についてのレクチャー」を実施していただきました。

どのレクチャーにも学生達は真剣な眼差しで臨み、短期間ながらも西洋医学と共存発展する漢方医学について学び、吸収できたようです。

2日目の夜に開催したウェルカムパーティーでは、緊張感に包まれた中での自己紹介からはじまりましたが、9日目の夜のフェアフェルパーティーでは、参加者全員が共に過ごした時間を振り返りながらのとても温かい会となり、留学生の皆さんからの日本の歌「今日の日はさようなら」のプレゼントをいただき、今後の活躍といつの日かの再会とを誓い合いました。交流した教職員・学生達も、彼らの真摯に学ぶ姿勢と温かい人柄に感銘し、医学を志す者同士、お互いに大変良い刺激となりました。

また、今後短期研修生受け入れを実施するための体制作りにも大変勉強となり、更なる国際交流を広げていきたいと思えます。